



日和山

新潟市立日和山小学校
学校便り 第100号
令和6年3月19日

筋交い（すじかい）

校長 宇ノ井 修二

1月1日の能登半島地震で被災された皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。

「『筋交い』が多いと、かなり強くなる。」地震に負けない家づくりの基本は、家そのものをより強固にする「筋交い」の量だと、ハウスメーカーに勤務する友人が話していました。

「縦の柱」と「横の柱」を、きっちりと支える「斜めの柱」のことを「筋交い」と言うのだそうです。この「筋交い」は、報道でも紹介されていました。

先日第3学年担任の机の上に、昔懐かしいダイヤル式の黒電話が上がっていました。昔の道具の学習です。サザエさんに登場する電話と同じ黒電話です。

私が小学生の頃、学級電話連絡網がありました。「連絡網での連絡」は、私にとっては、あまり好きなものではありませんでした。連絡網の私の名前の後には「（呼）」と記載されていたからなのです。担任のはからいでしょうか。私はいつも連絡網の一番最後でした。



かなり昔のことです。ご存知の方はおられるでしょうか。「（呼）」は「呼び出し」の意味です。

学級の中で、我が家だけ電話がなかったのです。だから、商売をしていた裏の家（天ぷら屋さん）の電話を借りていたのです。電話が来たときには、言葉遣いを親から何度も注意されました。「相手に失礼がないように。そして、脇で聞いている天ぷら屋さんが、悪い気持ちにならないように。」と。私の電話を脇で聞いていた、親でもないその天ぷら屋さんからは、電話の切り方を何回も注意されました。「修二、電話を切るときは、受話器で切るもんじゃない。相手にガチャってものすごい音がするだろ。まず指で切れ。指で切ってから受話器を置くんだ。」これが天ぷら屋さんの口癖でした。私が、相手が電話を切ったかどうか不安げにしていたとき「もらった電話なんだから、修二が先に切らなかつたら、相手は切ることができないだろう。相手を電話口まで呼び付けておきながら、先に切ったら失礼だからな。相手は、修二が切るまで待ってるんだ。はよ切れ！」とのご指導。天ぷら屋さんのじいさんは、とにかく厳しかった。でも、とにかく優しくかった。50数年前にももらったそのご指導は、今でも校長室で実践しています。

裏の天ぷら屋さんの家には、お風呂がありませんでした。近くに銭湯もあったのですが、ほぼ毎日、我が家のお風呂を使っていたっていました。今では、考えられないことです。電話を借りる代わりにお風呂を貸していたわけです。

連絡網の呼び出しマークが嫌だった私は、ある時、母に電話を買うことを提案したことがありました。すると、母が言いました。「あや～！そんなことしたら、天ぷら屋さんがお風呂を借りにくくなっちゃうでしょ！」……私が記憶している中で、最も誇らしく思う母の言葉です。

私にとって、天ぷら屋さんは、時には宿題の指導者、時には相談相手、時には親への文句を含めたぼやきをとことん聞いてくれる「私のよき理解者」でした。つまり、親でも友達でもない「斜めの関係」だったのです。もしかすると、私の親は、全て計算済みだったのかもしれない。

やがて、時代の流れもあり、天ぷら屋さんは廃業して引っ越しました。程なく、兄の進学を機に我が家にも電話が入りました。タイミングを凶ったように。

学校支援ボランティア等の地域の方と子どもの関係は、「斜めの関係」であると表現されます。先生や親との「縦」でも、友達との「横」とも違う。「利害関係の全くない、『斜めの関係』があって、はじめてそれが『筋交い』となり、より強固な人格形成が進む。」と言い切る社会学者がいます。大賛成です。

学校支援ボランティアとして、率先して「筋交い」になってくださる方がたくさんいる日和山小学校は、地震にも、自身にも負けない、「強固な人格形成」が進む、世界一恵まれた学校です。



6年生ありがとう週間・6年生に感謝する会

5学年主任 近藤 真弓

日和山小学校のために活躍してくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと、5年生が中心となって計画、準備した「6年生ありがとう週間（2月19日から27日）」、「6年生に感謝する会（2月28日）」を実施しました。今年のスローガンは、「最高の思い出の1ページを！輝け6年生未来に向かってステップアップ」でした。

「6年生ありがとう週間」では、「6年生お祝い放送」「6年生と遊ぶ会」「6年生へのプレゼント」を行いました。「6年生お祝い放送」では、事前に6年生に6年間の小学校生活に関わるアンケートを取り、その結果をランキング形式で発表したり、6年生へのインタビュー動画を視聴したりしました。「6年生と遊ぶ会」では、事前に、クローバー班で集まり、5年生が中心となって、6年生と楽しめる遊びを考えました。当日は、どの班も、6年生と楽しく交流しながら遊ぶ様子が見られました。遊んでいる時の6年生は、笑顔であふれていました。「6年生へのプレゼント」では、花のペンダントを作りました。1年生が描いた6年生の似顔絵の周りに、1年生から5年生が書いた花びらのメッセージを貼って、すてきなペンダントが完成しました。6年生は、みんなからのメッセージをじっくりと読み、とてもうれしそうでした。

28日（水）には、「6年生に感謝する会」を行いました。体育館は、6年生への感謝の気持ちでいっぱいとなりました。1年生は、元気いっぱいの応援ダンス。2年生は、ありがとうとおめでとうの思いを込めたダンス。3年生は、きれいな音色のリコーダー発表。4年生は、6年生が4年生だった時の6年生に感謝する会の出し物を再現。5年生は、出し物こそありませんでしたが、司会進行、オープニングとエンディング、入退場の演出、垂れ幕、くす玉などを担当しました。どの学年も、6年生に喜んでもらおうと趣向を凝らした出し物で盛り上げました。6年生も、6年間の思い出を劇で発表してくれました。それぞれの学年で心に残った出来事を寸劇でつないでいき、みんなを楽しませてくれました。最後は、1～5年生で「ハルカ」の替え歌を歌い、体育館一杯に響き渡る歌声で、6年生への感謝の気持ちを伝えました。

「6年生ありがとう週間」「6年生に感謝する会」を通して、1年生から5年生までの子どもたちは、6年生にたくさんの「ありがとう」の気持ちを伝えることができました。6年生は、在校生の思いを知り、日和山小学校での新たな思い出の1ページを増やしました。温かい感謝の気持ちがあふれた「6年生ありがとう週間」「6年生に感謝する会」でした。

